

令和7年12月26日

ナスバ（独立行政法人自動車事故対策機構）
企画・広報部 諸川、能勢
電 話 03-5608-7584

ナスバ 令和7年度上半期業務実績の公表について

◆ 業務実績の公表に当たって ◆

独立行政法人 自動車事故対策機構（以下「ナスバ」という。）では、自動車事故による被害者を「支える」、自動車事故を「防ぐ」、自動車事故から「守る」の3つの業務を一体的に実施する機関として、各種の取組を進めております。

今般、第5期中期目標・計画に基づき取り組んでいる令和7年度上半期の業務実績がまとまりましたので、別紙のとおり公表いたします。

私たちナスバは、令和6年に制定したタグライン「めざすのは、自動車事故ゼロの社会。」の下、被害者支援と自動車の事故防止を通して、自動車事故ゼロの社会の実現をめざし、組織一丸となって、引き続き、独立行政法人としての公的な責務を果たしてまいります。

国民の皆様におかれましては、ナスバへの一層の御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

1. 指導講習

全国50支所の体制を活用し、全国の自動車運送事業者に対し、一律かつ質の高い指導講習業務を提供し、指導講習全体の受講者数は、55,294人となりました（前年度同期比：1.9%増）。

具体的な取組として、動画視聴方式による非対面での講習を実施することにより、受講機会を拡大させるとともに、ICT技術を活用した更なるユーザーの利便性の向上と業務運営の効率化に寄与する新たな取組として、「eナスバ」（eラーニング方式による運行管理者指導講習）を継続的に実施しております。

2. 適性診断

適性診断全体の受診者数は、237,017人となりました（前年度同期比：2.9%増）。また、ナスバネット^{（注1）}導入契約事業者等による支所以外での一般診断受診割合は、年度目標の55%を大きく上回る62.9%（前年度同期比：0.5ポイント減）となっております。

（注1）ナスバネットとは、インターネットを活用した適性診断システムのことをいう。

3. 安全指導業務（指導講習・適性診断）の民間参入支援

ナスバでは、ナスバネットの利用を希望する適性診断認定機関136者に対して、46,530件（前年度同期比：8.2%増）のナスバネットによる受診測定を提供しております。

また、指導講習認定機関となっている団体等に対し、ナスバの作成した指導講習教材の提供を47,642冊（前年度同期比：1.9%減）行いました。

さらに、国土交通省の認定を取得される団体等向けに、適性診断業務の「第一種カウンセラー要件研修」及び指導講習業務の「第一種講師要件研修」を実施したほか、「指導講習認定機関連絡会」を全国145者に対して実施し、認定事業者の質の維持・向上に資する取組を行っております。

4. 安全マネジメント関連業務及び国の安全対策への貢献

(1) 安全マネジメントコンサルティング等

自動車運送事業者等に対し、コンサルティング、講師派遣、安全マネジメント関係講習会及び運輸安全マネジメント評価を実施し、安全管理体制の構築等を支援しました。

(2) ナスバ安全マネジメントセミナーの開催

11月25日（火）に東京国際フォーラム（東京都千代田区）において、「第18回ナスバ安全マネジメントセミナー」を開催しました。なお、昨年度に続き、遠方の事業者でも参加（視聴）できるよう、対面型に加え、オンライン配信によるハイブリット方式（参加申込者につ



ナスバ安全マネジメントセミナー

いては後日アーカイブ配信を実施)により開催し、1, 252人(対面: 544人、オンライン: 708人)にお申込みいただいております。

(3) 貨物軽自動車安全管理者に対する取組

貨物軽自動車運送事業者の安全対策が強化されたことに伴い、新たな取組として、eラーニングによる貨物軽自動車安全管理者講習を実施し、28, 244人に受講していただきました。

(4) 貸切バス事業許可の更新制度への支援

貸切バス事業の許可の更新制度の導入に伴い、事業許可更新時に必要となる運輸安全マネジメント評価について、31事業者に対し評価を実施しました。

(5) 貸切バス事業者安全性評価認定制度^(注2)への支援

貸切バス事業者安全性評価認定制度について、公益社団法人日本バス協会からの業務委託を受け、現地の施設等に訪問することによる審査支援について、69件実施しました。

(注2) 貸切バス事業者安全性評価認定制度とは、公益社団法人日本バス協会において、観光バス等の貸切バス事業者からの申請に基づき安全性や安全の確保に向けた取組状況について評価認定し、及び公表することをいう。



自動車事故被害者団体による特別講演

5. 療護施設の設置・運営

(1) 療護施設における質の高い治療・看護

高度先進医療機器等を用いた検査情報を基に、入院患者一人ひとりに即した治療計画を立て、プライマリーナーシング等を実施することで、その患者のわずかな意識の回復の兆しを見逃すことが無いような質の高い治療・看護を引き続き実施しております。

なお、療護施設の退院患者における遷延性意識障害度評価表(ナスバスコア^(注3))を用いた入院時スコアと退院時スコアの平均値の差については、9月末日時点において平均13.6点となっております。

(注3) ナスバスコアとは、日本脳神経外科学会で定義された「植物状態」を基に、療護施設の入院患者の症状について、その程度を判定するための統一基準のことをいう。

(2) 千葉療護センターの老朽化対策に関する検討

令和5年5月に取りまとめられた「千葉療護センターの老朽化対策に関する報告書」に基づき、基本設計に係る事業者の選定を行い、当該基本設計の取りまとめなど実施設計に向けた具体的な検討を進めたところでしたが、この基本設計段階で明らかとなった課題への対応として、隣地敷地(千葉県所有の駐車場)を活用した建替えへと方針転換を図り、千葉県と協議を行いました。

(3) 療護施設の知見・成果の普及促進

療護施設で得られた知見・成果を他の医療機関等において最大限活用する観点から、日本意識障害学会等において、39件(前年度同期実績: 41件)の研究発表を行いました。また、短期入院協力病院の看護師等に対する専門研修を実施しました。

(4) 脊髄損傷者の受入環境整備に向けたモデル事業

自動車事故による重度脊髄損傷の方が十分なりハビリテーションを受けることができる機会の確保を目指し、患者の受入れを通じて、受入環境整備に向けた検証を進めました。なお、令和7年9月末日時点において、10名の患者が入院しているところ、更なる患者の受入れを推進するとともに、受入環境整備の検証を重ねてまいります。

6. 重度後遺障害者に対する援護

(1) 訪問支援

介護料受給資格者^(注4)等の支援のため、直接自宅を訪問して、介護に関する相談対応・情報提供を行う訪問支援について、2,543人（前年度同期実績：2,576人）に対して実施しました。また、介護料受給資格者等のニーズを踏まえ、リモート方式による訪問支援について676人（前年度同期実績：668人）に対して実施しました。

（注4）介護料受給資格者とは、後遺障害の程度に応じて介護料受給資格の認定を受けた者のことをいう。

(2) 介護料受給者等の交流会

訪問支援による精神的な面での支援に加え、同じ境遇にある各家庭の介護者等が介護における悩みを共有し、情報交換をしていただくための交流会について、8支所9回（前年度同期実績：7支所7回）開催しました。

交流会では、作業療法士を招いて、リハビリテーションの効果や活用を説明するなど、受給者ニーズを踏まえて、意見交換や情報提供を行っております。



介護料受給者等の交流会

(3) 介護料の支給

自動車事故を原因とする重度の後遺障害により、常時又は随時の介護が必要な方に対し、後遺障害の程度、介護の状況に応じて介護料を支給しました。支給実績は、4,558人（前年度同期実績：4,597人）となっております。

なお、介護料受給者の利便性の向上及び業務運営の効率化を図るため、当該介護料について電子申請による請求手続の運用を開始し、2,713人（前年度同期実績：1,877人）の方が利用しております。引き続き、今後も被害等の状況に応じた介護料の支給を適切に行ってまいります。

(4) 短期入院・入所への支援

介護料受給資格者に係る短期入院・入所費用に係る助成について、延べ555人（前年度同期実績：546人）に対して行いました。

また、短期入院協力病院・短期入所協力施設^(注5)（以下「協力病院等」という。）の利用促進を図るため、訪問支援・介護料受給者等の交流会を通じて協力病院等の受入環境に関する情報提供を行うことで介護料受給資格者と協力病院等との間をつなぎ、利用前後のフォローアップを行っております。

（注5）短期入院協力病院・短期入所協力施設とは、国土交通省が指定した介護料受給資格者の短期入院・入所（原則、1回の入院が2日以上14日以内）を積極的に受け入れている病院・施設のことをいう。

7. 交通遺児等に対する支援

(1) 友の会の集い

自動車事故による被害者家族同士の交流の場として「友の会の集い」を19支所（前年度同期実績：14支所）で実施しました。



友の会の集い

(2) 保護者交流会

「友の会」に所属する交通遺児等の保護者同士が悩み事を語り合い、親睦を深める場として「保護者交流会」を19支所（前年度同期実績：12支所）で実施しました。



保護者交流会

(3) 交通遺児等に対する貸付

自動車事故による交通遺児等の方に対する生活資金の貸付を行っており、14人（前年度同期実績：20人）の方が利用されております。

8. 自動車事故被害者等への相談対応及び情報提供の充実

(1) 被害者・遺族団体への相談対応支援

国土交通省が選定した自動車事故被害者等への相談対応を実施している14団体（前年度同期実績：12団体）に対して、当該相談対応にかかる費用として、21,695千円（前年度同期実績：18,692千円）を支給しました。

(2) ナスバ交通事故被害者ホットライン利用実績

ホットラインに対し、525件（前年度同期実績：675件）の相談が寄せられました。引き続き、被害者援護業務に係る総合的な情報提供を行ってまいります。

9. 自動車アセスメント情報提供業務

(1) 自動車アセスメントの効率的・効果的な実施

昨年度と同様の内容で引き続き総合評価を実施しています。

また、国土交通省が策定した「自動車アセスメントロードマップ2025」に基づき、令和8年度以降で新たに導入される項目について検討を実施しています。例えば、商用車に対する予防安全性能評価の導入に係る検討として、海外事例調査、事業者ヒアリング等を行いました。

その他、海外の自動車アセスメント機関との意見交換を行いました。

(2) 自動車アセスメント評価結果の公表

自動車アセスメントの評価結果が確定した車種について、ユーザーに対し迅速に情報提供するため、随時公表しています。また、優秀な成績を収めた自動車に対する表彰式を5月に実施し、その様子をオンラインで動画配信するなど、より多くのユーザーに情報が発信できる取組を実施するとともに、XなどのSNSを活用した、情報発信を随時行いました。加えて、本年実施されるジャパン・モビリティ・ショー2025への出展準備として、新オフセット前面衝突試験の試験済み車両の他、試験用台車

の実物大模型等を展示する準備を進めました。

また、パンフレットとして「自動車安全性能2024」を36万部、「チャイルドシート安全比較BOOK」を24万部、アセスメント広報用チラシを22.5万部作成して、様々な場面において配布しております。

10. 広報の推進

(1) マスコットキャラクターを活用した広報活動

全国の主管支所及び支所において、地域特性等を活かしたイベント等を実施し、メディア等を通じて、マスコットキャラクター「ナスバちゃん」を活用した情報発信を積極的に行いました。特にナスバちゃんの人気を高めることで、ナスバへの興味と認知度を高めることを目的として、全国のゆるキャラの人気投票を行う「ゆるバース2025」に初めてエントリーし、投票が始まった8月からイベント等で周知を続け、9月下旬の投票期間終了まで投票依頼を行いました。9月27日、28日の決選投票ではナスバちゃんのブース出展を行うとともに、ナスバちゃんとナスバの事業紹介を行い、ナスバの認知度向上に資する取組を展開することができました。なお、最終順位は参加キャラクター299体中、18位となりました。



ゆるバース2025（集合写真）



表彰状を受け取ったナスバちゃん

また、ナスバちゃんを活用した広報活動を更に推進するべく、その可愛い姿を活かして、より効果的なナスバ事業の理解促進を図ることを目的として、オリジナルアニメーション、塗り絵、4コマ漫画等の広報ツールを制作しており、12月以降にSNS等の広報媒体にて広告を実施してまいります。引き続き、メディア等との連携を図りながら地域特性を活かした特色ある広報活動を全国で展開してまいります。

(2) 広く国民に周知するための効果的な広報活動の実施

ナスバでは、X・Facebookにおいて、ナスバが行っている被害者援護制度の案内やイベント情報等を積極的に配信しております。

また、昨年度に制作したナスバを紹介するウェブ用動画を各種イベントやSNS広告、デジタルサイネージなどで活用して、ナスバの業務を広く国民に周知しております。

(3) 被害者援護業務に関する周知活動

支援を要する事故被害者に必要な情報を確実に届ける「アウトリーチ」を意識した

周知を行うため、日本医療ソーシャルワーカー協会及び日弁連交通事故相談センターに対して被害者援護業務のリーフレットなどの配布による周知の協力依頼を昨年度から引き続き行っております。

なお、新たな取組として、日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会にブースを出展し、全国の医療や福祉の現場で活躍するソーシャルワーカーの方々に被害者援護制度の広報を実施することができました。

今後も地方自治体の関係部署や三次救急医療機関、損害保険会社等へのチラシの送付により被害者援護制度の周知を行うなど、あらゆる機会を捉えて周知活動を行ってまいります。